

山形地方気象台によると今年は、観測史上、山形市平野部での初雪がもっとも遅い年となり 84 年ぶりに記録が塗り替えられたそうです。われわれにとってはつらい雪かきがないのはありがたいことですが、雪が降らないと仕事がなくなってしまう人たちもいるので一概には言えません。冬期間の観光客の多くをしめるスキー場では頭を痛めているようです。

「道路台帳の電子化の方向について」

道路は、今、私たちの生活にとってなくてはならない重要な資産です。

山形県では、道路に関する情報を「道路台帳」をデータベース化し管理されていますが、「道路台帳附図」(1/500 図面)に関しては一部画像データにし任意の位置情報によりデータ化されています。この「道路台帳附図」は、毎年更新されていますので、道路の形状や施設に関しては最新情報をもっています。この主な利用の多くは、道路管理や新規事業計画などに使われています。また、他の部署や市町村においても活用される頻度は高く重要な共有データといえます。

しかし、最近の国の方針である「IT 国家」や「電子自治体」などを考えると、現在の台帳図面をすぐに活用するには問題があります。

1. 道路台帳附図に位置情報がないため、他部署や市町村の図面などとの正確な位置の共有ができない。
2. 画像データのため、道路部や各施設に対して情報を与えられない。
3. 位置情報がないため、電子納品(建設 CALS/EC)の成果が反映されない。

これらの問題点のひとつである位置情報の付与について考えたいと思います。まず、この手法についてですが、大きく分けて二つの方法があると思われます。一つ目には、机上で行なう手法で台帳図の境界点と地籍調査の成果や用地測量などの成果をマッチングさせて位置情報を与えるものです。二つ目には、道路沿いに基準点を設け現地の境界点を観測し台帳図の境界点とマッチングさせるものです。前者による手法ですと地籍調査の未着手の地区もありますのでデータ収集できない箇所があるために全路線をできないなどの問題があります。後者の手法によると、現地とマッチングさせるので精度の高い情報が得られるが、現地調査の時間がかかりますし費用も高くなることが考えられます。ただし、後者の場合、基準点を設置するためにそれを他の業務で活用したり、台帳の更新時にも活用できることが考えられるので将来的にみれば後者の手法が良いのではないかと思います。

いろいろ問題がありますが、貴重なデータを有効に活用できる方法をいろいろな方面から考え解決していかねばならないと思います。

次回の GIS News!

今回は、2005 年 1 月 11 日発行予定です。よろしくお付き合いください!

Geographic Information System



雪化粧をした月山 2004/12/09

